

1. トップメッセージ



滋賀医科大学学長 塩田 浩平

2015 年は人類にとって記念すべき年となりました。2020 年以降の温暖化対策の国際的枠組みである「パリ協定」に 196 もの国が合意したのです。京都議定書同様の法的拘束力を持ち、しかも経済発展の障害となりかねない協定にこれほど多くの国が参加したのは歴史上初めてのことです。交渉の段階では対立が目立った各国が、地球温暖化という共通の問題に対して団結して取り組む意志を最終的に示したことは、大きな成果といえるでしょう。

この協定では、世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して 2 度未満におさえるための行動を各国に求めています。我が国は温室効果ガスを 2030 年までに 26%削減(2013 年比)する目標を提出しました。この目標を達成するための国内の体制整備が今後進められていくこととなります。

ふりかえって本学での温室効果ガス排出の状況を確認しますと、そのほとんどがエネルギー起源となっています。附属病院をかかえているためエネルギーを多く消費する傾向は避けられず、それがそのまま温室効果ガス排出増につながっています。そこで私たちは、最も効果的な温室効果ガス削減対策として省エネルギーに取り組みました。活動の詳細は本書に記載されていますが、2015 年度は前年と比べてエネルギー総量で 3.9%の削減、2013 年と比べると 5.7%の削減を達成しました。

本学は、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学」として、人々の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献するため、次の 3Cを推進しています。

Creation: 優れた医療人の育成と新しい医療・医学の創造

Challenge: 優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦

Contribution: 医学・医療・看護を通じた社会貢献

この活動を進めるために、現実には多くのエネルギーを消費し、温室効果ガスを排出しています。温室効果ガス排出量を最小限にして環境へのインパクトを抑える努力を続けてまいります。医療、とりわけ人々の健康と地球環境とは密接な関係がありますので、医療人育成を使命とする本学としては、環境マインドを備えた医療人を輩出し、地域と地球環境により一層貢献していく所存であります。